

◇深 沢 義 一 君

○議長（伊藤福章君）次に17番深沢義一君の一般質問を許可いたします。深沢義一君、登壇願います。

（17番 深沢義一君 登壇）

○17番（深沢義一君）午後からの質問は私一人ということで、いつになく期待と緊張という状況であります。通告に従いまして質問をいたします。

少子高齢化社会に加えて、原油高からの物価の高騰など、かつて想像できないほどの厳しい状況が到来しています。そして、それらに対応すべくさまざまな対策を練りながら、町において、家庭において、皆懸命に頑張っているのが今の社会状況ではないかと思えます。

そうした状況の中、地域を少しでも明るく活性化させていくためには、何といたっても若い人たちの力が必要であり、欠くことのできないものと考えますし、エネルギーをどんどん出してもらえよう、町として、あるいは町全体として若者支援に積極的に取り組む必要があると思うところであります。

こうしたことから、結婚問題への取り組みについてと、若者が主体となったイベントの創出についての2点について、一問ずつ質問をいたします。

まず初めに、結婚問題への取り組みについてであります。このことにつきましては、ほかの先輩議員からも幾度となく質問されておりますし、私自身も一昨年9月定例においても同じ質問をしておるところであります。そのときの答弁では、「出会いの場の創出をしているが、女性の参加が少なく交流するまでには至っておらず、今後の取り組みについて検討する」、あるいは「活動の一つとして情報交換し、結婚に結びつくよう努力する」とありましたが、プライバシーの問題やデリケートな面が多いことから、その取り組みについてはやや消極的にならざるを得なかったのかなと思うところであります。再度同じ質問をするに至ったのは、この結婚問題がさまざまな面での根底に位置する大きな課題であると改めて思うことが幾つかあったからであります。

一つには、何といたっても少子化であります。特殊出生数の減少もあるでしょうが、現実に想像を超えるほどに子供が減っている状況を考えますと、その根底の一つである結婚問題について消極的ではいられない状況であるということ。また、農業であれ商業であれ、あるいはサラリーマン家庭であれ、結婚がその家の安定につながる大きな要因であることから、結婚を切望している家庭が多いこと。加えて申し上げますと、母子・父子家庭も多いということも挙げられます。

また一つには、結婚が地域に根ざす契機となり、さまざまな参画へのきっかけになっていることから、地域活動の活発化にも結びついていることなど、今さら言うまでもないわけではありますが、非常に大きな要素を含んでいると思うからであります。

そうしたことから、さまざまな組織と連携・協力を得ながら積極的に結婚問題に取り組むべきと思いますが、町長と農業委員会会長にこの問題への取り組みについての考えをお伺いいたします。

○議長（伊藤福章君）答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君）ただいまの深沢議員のご質問にお答えいたします。

結婚問題の取り組みについてですが、先ほど議員からもご指摘ありましたが、町では平成17年度から出会いの場創出事業として、結婚を望んでいる方々のグループとして「こみっと」というものを平成17年7月に設立いたしました。67名の方々の会員登録をいただいております。

この会の事業として、平成17年度は2回の会員交流会、結婚相談、出会いの場として町主催のイベントの周知を行っております。平成18年度にも同様のイベントを企画しましたが、会員交流会への女性の参加者がいなかったため、中止せざるを得ない状況になり、そして平成19年度においては、その「こみっと」を解散した経緯があります。

こうした現実を踏まえるとともに、民間やNPO法人でも事業を展開していることも踏まえ、仙北地域振興局懇談会での意見交換の中では、より広域的な取り組みについてお願いした経緯もあるところでは。

結婚問題につきましては、町としましてはさまざまな交流を通じての出会いに期待し、町内の各種イベント開催において気軽に参加できる雰囲気づくりや、イベント開催の周知に努めてまいりたいと存じますし、加えまして、より広域的な取り組みというものについての県の支援についても町として県に要望してまいりたいと存じますので、何とぞご理解をお願いいたします。以上です。

○議長（伊藤福章君）答弁を求めます。農業委員会会長、登壇願います。

（農業委員会会長 渡邊 調君 登壇）

○農業委員会会長（渡邊 調君）それでは、深沢議員の質問にお答えいたします。

さきに町長のご答弁にもありましたとおり、農家をめぐる情勢は農業従事者の高齢化や、後継者の確保の問題等年々厳しさを増しております。結婚問題については、農家のみならず美郷町全体の問題と考えていますが、個人情報保護法の施行以来、情報の提供等が困難となっています。こうした中、農業委員会としては結婚相談ということだけではなく、農業委員活動の中での農業相談の一つとして、これからも情報交換し、対応してまいりたいと考えております。

今後とも、ご指摘とご指導をお願い申し上げまして、答弁といたします。

○議長（伊藤福章君）再質問ありますか。17番深沢義一君の再質問を許可します。

○17番（深沢義一君）旧町村時代には結婚相談員もおりましたし、また農業委員会でも積極的に取り

組んでおられたと思います。事実、私の周りにも農業委員会主催の出会いがきっかけで結婚した方もおられますし、数はともかくとして結婚に結びついた活動がかつてはあったわけであります。

時代は様変わりしていますが、以前に増して深刻化してきているのも事実であります。合併のスケールメリットを生かし、積極的な活動をお願いいたしたいと思っております。

また私自身も議員として、また一個人として積極的に取り組んでいきたいものと思っております。

ところで、町長に再質問であります。具体についての考えはすぐにといいわけにはいかないと思いますが、出会いを前面に出しての場の創出では、女性の参加は抵抗感を持たれてしまい、なかなか難しいものと思っております。そうしたことから、参画するイベントの創出も必要と考えるわけでありますが、このことは次の質問で行うこととして、紹介活動とも言うべき結婚相談員の配置ということも必要と思っておりますが、そうした考えはお持ちではないでしょうか。

○議長（伊藤福章君）答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君）深沢さんの再質問にお答えいたします。

結婚相談員活動については、深沢議員がご指摘のとおり合併する前、各町村において農業委員の委員の方々が兼務したり、あるいは別途配置しておりました。その方々の実績という観点では非常に厳しい内容の数値が実績として残っております。

その実績の背景にあるものは、だんだん変わってくる情報化社会の中で、そういった情報に対する結婚適齢期の方々の価値観というものがあるんだろうと認識しております。したがって、現段階で従前と同じような形での結婚相談員というものについて配置することは難しいもの、いや相談員活動の実績を求めることがかなり難しい状況にあるのではないかと考えております。

したがって、結婚相談活動というよりも出会いの場という部分での取り組みの方が、町としては実効が上がるのではないかと考えています。なお、さらにその実効の部分については次のご質問に対する答弁でお答えしたいと思います。

○議長（伊藤福章君）よろしいですか、17番深沢義一君。

○17番（深沢義一君）次の問題に入りたいと思っておりますが、再度申し上げるんですが、場の提供ということだけでは、なかなか女性の参画というのは難しいものと思っております。そういう意味では、確かにプライバシーということはあるにせよ、紹介活動というようなことから、やはり結婚相談員というのはこういう時勢を考えますと必要なものではないかなと私なりに思っておりますが、このこともあわせて後々検討いただければなど、そう思います。

次に、先ほど話しましたように結婚問題とも関連するわけでありますが、町の活性化を目指すとともに、若者たちに活力を与え、美郷町民としての郷土意識・仲間意識を高めてもらうため、町職員も

含め町内のさまざまな組織に呼びかけ、若者が主体となった全町イベントの創出も必要であると考えます。

ちょうど20年ほど前の夏、旧仙南村において「お嫁の来る町フォーラム イン 仙南」というイベントが開催されました。私もそのときのスタッフでありましたが、村が提案し、村の若者が協力し合って作り上げたイベントであり、単年度ではありましたが、その後のさまざまな活動につながったイベントであったと思っておりますし、結婚に結びついた出会いもあったやに聞いております。

イベントをつくり上げていく中で、あるいは参加する中で出会いも生まれることと思ひますし、町内外への交流で人が触れ合う町美郷町へと発展するものと考えます。美郷町出身の全国で活躍されている方々にも声をかけ、そして東京大田区など友好都市にも呼びかけ交流することで、さらに活力が増すものと考えますが、そうしたイベント創出に対する町長のお考えを伺いたしたいと思います。

○議長（伊藤福章君）答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君）ただいまの深沢議員のご質問にお答えいたします。

若者が主体となったイベントの創出についてですが、町内にはさまざまなイベントがありますが、年配の方々が主体となって準備や段取り、片づけにご難儀をしている事例が見かけられます。進まぬ世代交代に憂慮されている方も多く、将来的に存続が心配される行事も散見されることから、地域の担い手である若者世代の地域活動には大きな期待をいたすところです。

一方、現在町内には若者世代が参画している幾つかの地域づくり団体があり、それぞれ独自のイベントなど自主事業を行っております。具体的には千畑黒友会による「くろさわフェスティバル」や、地域づくりマスター会の「焼災招福祈願祭」、ぜんまい座の寸劇や地域通貨ユウちゃん倶楽部の寄席などです。こうした団体は、イベント時にスタッフとして若者に協力を呼びかけながら、また人出の足りない場合は他団体と相互協力しながら取り組んでいるようですので、議員ご指摘の出会いの場を前面に出さない形の出会いの可能性もあるものと存じます。町としては、今後も何らかの形で支援してまいりたいと考えております。

また、別の観点で今後若者が実行委員会等を組織してイベントを創出できるかどうかについては、現在のイベント開催状況を踏まえながら、さまざまな観点でご意見をいただき、その可能性について検討してまいりたいと存じます。いずれ、若者が地域で活動すること自体が地域の活性化につながりますし、また自然に出会う出会いの場にもなり得ますので、若者の活発な活動は期待しているところです。以上です。

○議長（伊藤福章君）再質問ありますか。17番深沢義一君の再質問を許可します。

○17番（深沢義一君）再質問ではございません。

最後に一言申し上げて終わりたいと思います。町長の答弁にもありましたように、今現在さまざまなイベントが開かれていることは承知しております。ただ、この後もう少しというか、全町にまたがるような、広く参加できるようなイベントということ念頭に置きながら、どうか検討していただきたいものと思います。答弁は結構ですので終わります。

○議長（伊藤福章君）これで17番深沢義一君の一般質問を終わります。